

第3期あきた文化振興ビジョン 定性評価シート（令和6年度）

事業名	美術活性化アウトリーチ事業
事業実施者	ミルハスを核としたにぎわい創出委員会（県、市、（一社）秋田県芸術文化協会、あきた芸術劇場AAS共同事業体、JR）
直営・ 委託 ・ 補助	事業費 700千円（県費 350千円、その他 350千円）

第3期あきた文化振興ビジョン 基本方針該当項目	<input type="radio"/> A あきた芸術劇場ミルハスを核とした文化活動の活発化と鑑賞機会の充実
	<input type="radio"/> B 次代を担う後継者や若手アーティストの育成と活動支援
	<input type="radio"/> C 文化の継承と発展、創造
	<input type="radio"/> D 地域の文化資源を活かした交流人口・関係人口の拡大

第3期あきた文化振興ビジョン 施策該当項目	基本方針—施策
	A-1 多様な人々の文化芸術活動への参加機会の確保と活動の活発化
	A-2 県民が文化芸術に親しむ機会の充実
	A-3 公立文化施設の利用促進
	B-1 学校における文化芸術活動・体験の充実
	B-2 文化芸術を担う人材の育成・活動支援と発表の場の確保
	D-1 文化芸術による交流人口・関係人口の拡大

事業概要

実施日時	令和6年9月20日（金） 13時半～15時
事業目的	県内の小・中学生を対象として、東京藝術大学大学美術館の学芸の専門家を講師とするアウトリーチを実施し、児童・生徒に質の高い美術に触れる機会を提供するとともに、交流を通じて美術への興味・関心を喚起する。
実施概要	大学美術館と会場をオンライン接続し、児童・生徒と対話を交えながら、収蔵作品の解説や作品を活用した演習を実施する。

評価

評価項目		評価
有効性	【妥当性】施策・事業の目的や狙いに沿った内容であったか	
	【表現者における充実度】出演者やアーティストが創造性を十分に発揮できる内容であったか	
	【表現者における発展性】出演者やアーティストの表現活動の発展を促す内容であったか	
	【受容者における充実度】参加者や来場者の世代、性別等にかかわらず満足感が得られる内容であったか	
	【受容者における発展性】参加者や来場者の興味・関心を発展、深化させる内容であったか	
	【効率性】投入したコスト（費用、時間）に見合う内容であったか	
運営	【計画性】事業が計画性を持って行われていたか	
	【連携】事業実施者と関係団体（参加団体や施設等）との連携が図られていたか	
	【能力】事業実施者と関係団体は事業を適切に遂行するためのノウハウ及び実績を有していたか	
	【持続可能性】今後も継続して行うことができる事業運営体制がとられているか	
	【従事者の負担軽減】事業運営体制において適切な分業が行われていたか	
工夫	【広報・周知】広範囲の対象に情報が届くように、配慮や工夫が図られていたか	
	【独創性】創意工夫があり、独創性を有する内容であったか	
	【体験機会の提供】実感を伴った文化・芸術の理解を促進する参加者の体験機会が設けられていたか	
	【対話機会の提供】参加者や来場者と事業実施者の間に対話の場が持たれていたか	
	【デジタル化】デジタル化を念頭に置いた創意工夫が行われていたか	
ビジョン重点項目	【波及効果】地域活性化（人の交流、にぎわいの創出）が期待できる内容であったか	
	【地域性】郷土の魅力を改めて発信できる内容であったか	
	【広域性】広い地域からの参加、来場があったか	
	【育成・継承】発表者や参加者に若い世代が加わっていたか	
	【他分野との連携】地域の学校と連携した取組を行うことができていたか	
	【包摂性】高齢者や子供、障害者等への配慮がなされていたか	
事業の定性評価（平均点）		0

A高い ⇔ E低い（5段階で判定）※評価が困難な場合や評価項目が事業の性質に馴染まない場合：N

◆次の項目には、上の評価を行うに当たって着眼したこの事業の特徴的な点について、特に評価できる点と改善を要する点とに分けて記述してください。

特に評価できる点	
----------	--

改善を要する点	
---------	--

評価(判定)基準

- A (5点) 特に評価できる
- B (4点) 評価できる
- C (3点) おおむね評価できる
- D (2点) 改善を要する
- E (1点) 根本的な見直しを要する